

# タンザニアに行こう！

氏名：神山 陽啓                      学校名：宇都宮大学教育学部附属特別支援学校  
 担当教科：合科統合                実践教科：生活学習  
 時間数：8 時間                      対象学年：高等部全学年                      人数：23 名



## 【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：		
タンザニアの人々の暮らしを体験的に学習することを通して、異文化に関心をもち、異なる文化をもつ人々を身近に感じながら、生活できるようにする。		
【2】単元の評価基準例	(ア) 関心・意欲・態度	タンザニアについて学び、異文化を知ろうとする気持ちを高める。
	(イ) 思考・判断・表現	日本とタンザニアの違いについて気づき、感じたことを伝えることができる。
	(ウ) 技能	スワヒリ語で簡単なやり取りをすることができる。
	(エ) 知識・理解	タンザニアの人々の暮らしについて理解している。
【3】単元設定の理由  (児童 / 生徒観、 教材観、指導観)	(生徒観) 本校高等部は、1 学年から 3 学年まで、男子 15 名女子 8 名で構成されている。知的障害のほか広汎性発達障害、自閉症を併せ有する生徒が在籍する。コミュニケーション面では、音声言語による説明を聞いて活動を始められる生徒がいる一方で、絵や写真の入った手順表などの視覚支援により見通しをもって活動できる生徒もいる。また、生活経験の不足などから自分に自信がもてず、他者と関係を築くことを苦手とする面も見られる。生徒の中には、小学校の外国語活動や中学校の英語科の授業において、外国語や異文化に触れた経験のある者もいたが、経験のない者がほとんどである。様々な国々を扱うテレビのバラエティ番組は観るが、世界で起こっているニュースには、関心があまりない生徒も多い。	
	(教材観) 本教材では、タンザニアという国について学習し、そこで暮らす人々の生活について調べた上で、タンザニアに興味関心をもてるような機会を最初に設ける。次に、東京オリンピック・パラリンピックへの招待状として簡単な絵やメッセージを書く学習を行い、招待状を通じた日本とタンザニアの相互交流を図ることで、生徒がタンザニアの人々をより身近に感じられると考えた。そのような親近感を抱いた上で、タンザニアの人々の暮らしについて学習を進めることで、学習意欲が高まることが期待される。タンザニアの人々の暮らしを「学校」「言葉」「民族衣装」「食」「ダンス」とテーマに分け学習内容を明確化することで、日本とタンザニアのそれぞれの文化的な違いが分かりやすくなると考えた。さらに、毎時間の帯活動として手作りパスポートでのやり取りを行うことで、スワヒリ語という外国語で挨拶し伝わる楽しさを感じることが、積極的に他者と関わろうとする態度につながると考える。教材の最後には、学習したことを壁新聞にまとめ、学校祭の展示として公開することで、学習への達成感を味わえるようにできると考えられる。以上のことから、本教材は、国際社会への興味関心を高め、他者との違いを認識し、積極的に関わろうとする態度を育むために有効であると考えた。	

(指導観)

指導にあたっては、体験的な学習の充実を図り、単なる知識にふれるだけの学習とならないようにしたいと考えた。具体的には、手作りパスポートのやり取りやタンザニアで出会った人を登場人物にしたストーリー性の導入、五感の活用をすることで、生徒の学習への主体性を引き出すことが期待できる。また、他者との違いに気付き関わろうとする態度を育むために、ペアやグループ活動を取り入れたいと考える。ペアやグループ活動を行う際には、活動の目的が生徒にとって分かりやすく、自ら他者との活動に関わりたいと思えるような状況づくりに留意したい。その中で、相手の気持ちや考えを受け入れ理解する力や自分から気持ちや考えを発信する力を伸ばしたい。授業実践する教室を限定し、場所に意味付けを行い、外国に行くという雰囲気づくりに努めたい。

【4】展開計画（全8時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	タンザニアを調べよう！  ・タンザニアに興味をもつきっかけにする。 ・タンザニアについてテーマごとに調べることを通して、タンザニアの基本情報について知ることができる。	・タンザニアの位置、タンザニアまでの移動手段や所要時間をパソコンやタブレットで調べる。 ・タンザニアの「ウガリ」や「カンガ」についてテーマを決めて調べ、発表する。   テーマごとにタンザニアについてパソコンで調べる様子	・パソコン ・タブレット ・写真
2	日本へ招待しよう！  ・タンザニアの児童や生徒をイメージすることができる。 ・タンザニアの児童や生徒が日本に来たくなるような日本の文化を選んだり考えたりして、招待状を作ることができる。	・タンザニアの児童や生徒の写真を見る。 ・日本への招待状を制作する。(タンザニアの子どもたちへ日本の絵を描いたり、メッセージを書いたりする。)   招待状を作成している様子	・マスキングテープ ・クーピー ・色鉛筆

<p>3</p>	<p>タンザニアに行こう！① ～タンザニアの学校～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンザニアの高校生の生活を通して、タンザニアの学校の様子が分かる。</li> <li>・タンザニアから届いた招待状の返事に興味をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招待状の返事を見る。＜資料1・2＞</li> <li>・タンザニアの高校生による学校の紹介を聞く。＜資料3・4＞</li> <li>・タンザニアの学校について写真や動画で見たり、学校クイズに答えたりする。</li> </ul>  <p>タンザニアから届いた招待状の返事に注目している様子</p>  <p>クイズに正解し喜ぶ様子 (パシャパシャパシャチョマー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りパスポート</li> <li>・タンザニアシール</li> <li>・写真スライド</li> <li>・動画</li> <li>・タブレット</li> <li>・招待状</li> </ul>
<p>4</p>	<p>タンザニアに行こう！② ～タンザニアの民族衣装とスワヒリ語～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンザニアの布である「カンガ」の使い方やタンザニアの人々の服装について知る。</li> <li>・タンザニアの先生とスワヒリ語による簡単なやり取りをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「カンガ」に触れたり、着たりする。</li> <li>・簡単なスワヒリ語を練習する。＜資料5＞</li> <li>・タンザニアのアリー先生とスワヒリ語で会話する。</li> </ul>  <p>アリー先生と会話を楽しむ様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りパスポート</li> <li>・タンザニアシール</li> <li>・カンガ</li> <li>＜資料6＞</li> <li>・スライド</li> <li>・アリー先生の動画</li> </ul>

<p>5</p>	<p>タンザニアに行こう！③ ～タンザニアフード～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンザニアの主食と日本の主食との違いに気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順表に従って、タンザニアの主食の「ウガリ」を調理し、食べる。</li> <li>・日本の主食と比べて、感じたことを伝え合う。</li> <li>・手順表に写真やコメントを貼る。</li> </ul>  <p>「ウガリ」の調理に挑戦する様子</p>  <p>完成した「ウガリ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りパスポート</li> <li>・タンザニアシール</li> <li>・ウガリの粉</li> <li>・調理器具</li> <li>・手順表（調理前・調理後）</li> </ul> <p>&lt;資料 7&gt;</p>
<p>6 本時</p>	<p>タンザニアに行こう！④ ～タンザニアダンス～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンザニアの楽器や踊りに興味関心をもつ。</li> <li>・タンザニアの児童や生徒と一緒に踊った気持ちになることができる。</li> <li>・タンザニアの楽器の使い方や踊りの意味を知ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンザニアのダンスに合わせて、グループごとに太鼓を鳴らしたり踊ったりする。</li> <li>・全員で一つのダンス動画をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作りパスポート</li> <li>・タンザニアシール</li> <li>・タンザニアの太鼓</li> <li>・ダンス映像</li> <li>・タブレット</li> </ul>



7	タンザニア特集を作ろう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返った写真やコメントを使い、タンザニア特集（壁新聞）を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真</li> <li>画用紙</li> <li>マジック</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンザニアのテーマに沿った壁新聞づくりを通して、タンザニアについて学んだことを整理する。</li> <li>これまでの学習への達成感を味わい、もっと異文化について知ろうとする意欲につなげることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校祭での展示の仕方を考える。</li> <li>これまでの学習を通して、感じたことや考えたことを発表する。〈資料8〉</li> </ul> <div data-bbox="660 421 1190 815" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="810 824 1037 855">出来上がった壁新聞</p>	

【5】 本時の展開

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p data-bbox="197 1464 268 1541">導入 (10分)</p> <p data-bbox="197 1800 268 1877">展開 (30分)</p>	<p data-bbox="322 1057 689 1124">0 スワヒリ語によるパスポートのやり取り</p> <p data-bbox="347 1178 689 1245">(1) 簡単なスワヒリ語で挨拶する。</p> <p data-bbox="347 1263 689 1370">(2) パスポートに貼りたいタンザニアシールをスワヒリ語で伝える。</p> <p data-bbox="322 1469 408 1491">1 挨拶</p> <p data-bbox="322 1514 456 1536">2 準備運動</p> <p data-bbox="322 1639 529 1662">3 学習内容の確認</p> <p data-bbox="322 1805 603 1872">4 タンザニアダンス練習 (1) ダンスを見る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パスポートの受け渡しを通して、タンザニアに来たという雰囲気作りをする。</li> <li>スワヒリ語でやり取りができるように、挨拶のパターンの定着を図る。</li> <li>4種類のシールを数字の枠の中に置き、スワヒリ語で数字を選び言うことで、貼ってほしいシールをスワヒリ語で伝えられるようにする。</li> <li>スワヒリ語にふれられるようにする。特に、数字の読み方に着目するように促す。</li> <li>本時の流れに見通しをもつことができるように順序立てて伝える。</li> <li>スクリーンにダンスの映像を映し出し、ダンスの振りを確認しやすくする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手作りパスポート 〈資料9〉</li> <li>タンザニアシール 〈資料10〉</li> <li>スワヒリ語のラジオ体操音源</li> </ul>

	<p>(2) グループごとに練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ発表の目的を確認する。</li> <li>3グループに分かれる。</li> <li>グループ内の役割(踊る人／太鼓を叩く人)を話し合って決める。</li> <li>映像を確認しながらダンスの練習をする。</li> </ul> <p>(3) グループごとに発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの発表映像をつなぎ合わせて、Ftube という名称の動画にして最後に全員で観るという目的を確認してから、グループ活動を行うことで、練習に向かう生徒の意欲につなげる。</li> <li>グループのメンバー表やグループでの活動内容を記したカードを各グループリーダーに渡し、できるだけ生徒同士で活動できるようにする。</li> <li>ダンスの映像をタブレットに映し出し、グループ内でダンスの振りを確認しやすくする。</li> <li>各グループや全員でのダンス映像をタブレットで撮影し、振り返りの場面で確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループメンバー表</li> <li>活動表</li> <li>タンザニアの太鼓 &lt;資料 11&gt;</li> <li>タブレット</li> <li>三脚</li> </ul>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>5 まとめ、振り返り</p> <p>(1) 全グループのダンス動画を見て、振り返る。</p> <p>(2) 感想を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つの動画を見ることで、仲間と一緒に「できた」という達成感を味わえるようにする。</li> <li>自分の気持ちを相手に伝えたり、相手の気持ちを聞いたりしやすい雰囲気にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクリーン</li> <li>プロジェクター</li> <li>タブレット</li> </ul>
	<p>6 挨拶</p>		

【授業実践の様子】



スワヒリ語によるパスポートのやり取り

**moja (モジャ) グループ**

- ① リーダーがメンバーを集める。

〇〇〇〇さん	〇〇〇〇さん	〇〇〇〇さん	〇〇〇〇さん
〇〇〇〇さん	〇〇〇〇さん	〇〇〇〇さん	

- ② 踊る人と太鼓を叩く人を決める。

※太鼓を叩く人は、1グループ2人まで

- ③ 太鼓を叩く人は、太鼓を取りに行く。

- ④ iPad を使って、ダンスと太鼓の練習をする。

**グループの活動表**



タンザニアのダンスに注目している様子



グループで役割を話し合っている様子



グループでダンス練習している様子



ダンスの振りを確認している様子



グループでダンス発表している様子



Ftube (自分たちのダンス動画) を観ている様子

<b>【6】 本時の振り返り</b>	
<p>パスポートのやり取りから始まり、ラジオ体操や補助運動、さらにタンザニアの子どもたちのダンスにスワヒリ語が多く活用されていることで、生徒がタンザニアの雰囲気を体感できるような環境作りを行うことができた。また、生徒の興味のあるテレビ番組のコーナーを使用し、ダンスを踊る目的を明確にすることで、学習意欲を喚起することができた。</p>	
<b>【7】 単元を通した生徒の反応 / 変化</b>	
<p>(単元開始前の生徒の言葉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「(テレビ番組の) イッテQを見て、面白かったです。」</li> <li>・「海外は怖いです。」</li> <li>・(教師がタンザニアに行くことを受けて)「気を付けて行ってください・・・。」</li> </ul> <p>(単元終了後)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「イッテQで、アフリカの国が出てきて、調べたらスワヒリ語を話すそうです。ケニアだったかな。」</li> <li>・(世界地図を広げながら)「行ってみたいな」「どこに行こうかな」</li> <li>・(登校すると、教師に向かって元気よくスワヒリ語で朝の挨拶)「ハバリ ザスプヒ！」</li> </ul>	
<b>【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】</b>	
<p>休み時間の会話の中に、世界地図を広げながらタンザニアやその他の国について話題に出し、友達と会話する生徒が増えた。スワヒリ語に興味関心が高い生徒も多く、授業で扱った簡単な挨拶や数字以外で気になるスワヒリ語のフレーズを自分から調べる生徒が出てきた。</p> <p>実践授業を終えてからの感想の中には、本当にタンザニアに行った気持ちになったと答える生徒が多かった。授業が進むにつれて、タンザニアの授業を楽しみだすと実感する生徒が増えた。</p>	
<b>【途上国・異文化への意識の変容について】</b>	
<p>(授業前)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 韓国やアメリカという身近な国の名前を知っている。</li> <li>② 日本以外の外国人はみな、英語を話すと思っている生徒も多かった。</li> </ol>	
<p>(授業後)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① タンザニアだけでなく、ケニアやウガンダなどアフリカという地域に多くの国があり、日本とは違う文化をもつ人がいるということが分かった。</li> <li>② 英語以外にもスワヒリ語という外国語があることが分かり、国が違っていると話す言葉が変わることもあるという知識の理解が進んだ。</li> </ol>	
<b>【自己評価】</b>	
1. 苦労した点	<p>高等部という学習集団を対象にし、1～3学年にまたがっていたが、各学年の授業時間を合わせて授業を実施する機会を設けることが難しいときがあった。そのため、必要に応じて、学年ごとに授業を展開することもあり、どんな学習集団で「何をどこまで学習するのか」計画的に検討していく必要があった。</p>
2. 改善点	<p>実践で扱った内容はタンザニアの一部でしかないため、主観的で偏ったイメージをもたせないように留意する必要がある。そのため、授業で学んだことのみで学習が終わらず、自分でもっと「知りたい」「学びたい」という気持ちをもてるような活動を加えていけるように改善したい。</p>



<p>3. 成果が出た点</p>	<p>特別支援学校において、国際理解教育はあまり扱われない分野であるが、生徒の視野を広げるとともに、自分から相手と関わろうとする態度を育むという意味でも有効な取組であった。</p> <p>現地の子どもと一緒に活動している写真を提示したところ、「先生、本当にタンザニアに行ったんですね」と驚いていた生徒が多かった。生徒にとって身近な存在である教師から、現地での体験を直接見聞きし、感じたり考えたりすることで、日本以外の国をより身近なものとして捉えられたと考える。</p> <p>また、外国語を通して自分から「話したい」という気持ちが育ち、日常的に教師や友達とスワヒリ語の挨拶を交わす生徒の姿が自然に見られるようになった。</p>
<p>4. 備考（授業者による自由記述）</p>	<p>今回はタンザニアをきっかけにして、異文化に興味関心がもてるような学習を展開してきた。違う国においても、実践を繰り返し行う中で、生徒の異文化への理解をさらに深めていきたい。そして、異文化理解から問題解決へと学習に発展性をもたせながら、世界の抱える問題に対して興味をもち、自分で考え自分なりの意見をもつことができるような学習内容や学習活動を今後も検討したい。</p>

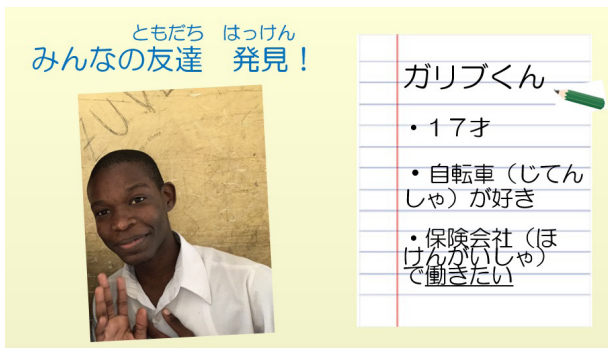
添付資料：



〈資料 1〉招待状とその返事①



〈資料 2〉招待状とその返事②



〈資料 3〉タンザニアの高校生を主人公にしたスライド（ストーリー性をもった展開①）



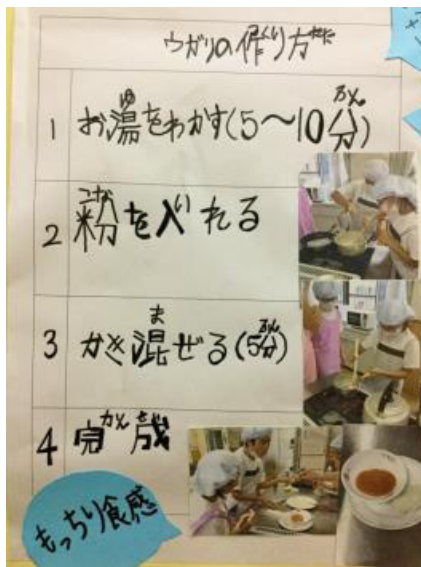
〈資料 4〉タンザニアの高校生を主人公にしたスライド（ストーリー性をもった展開②）



〈資料 5〉 タンザニアの高校生と先生の会話をモデルにしたスワヒリ語会話練習のスライド (ストーリー性をもった展開③)



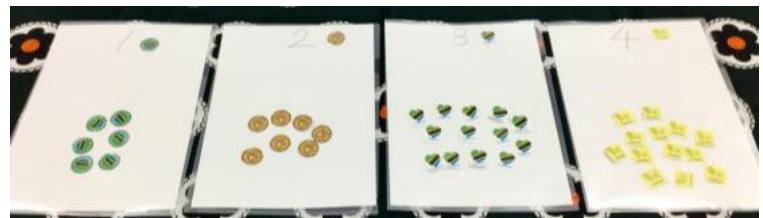
〈資料 6〉 カンガ



〈資料 7〉 「ウガリ」の作り方の手順表



〈資料 8〉 学校祭でのタンザニアブース



〈資料 10〉 タンザニアシール



〈資料 9〉 手作りパスポート



〈資料 11〉 タンザニアの太鼓



〈その他資料〉 階段で覚えるスワヒリ語の数字の読み方

参考資料:

- ・公益財団法人愛知県国際交流協会「私たちの地球と未来タンザニア連合共和国」
- ・駐日タンザニア連合共和国大使館 Web ページ <http://www.tanzaniaembassy.or.jp/>